

SCHUBERT
PIANO SONATA in B flat major, Op.posth. D.960
WANDERER FANTASY in C major, Op.15 D.760
LILI KRAUS
piano

SCHUBERT
Sonata in B flat major
Op. Posth. (D.960)
Wanderer Fantasy in C major
Op. 15 (D.760)
LILI KRAUS



シューベルト Franz SCHUBERT

ピアノ・ソナタ 第21番 変ロ長調 D.960

Piano Sonata in B-flat major, Op.posth. D.960

- | | | |
|---|---|--------|
| 1 | I - Molto moderato | 18'59" |
| 2 | II - Andante sostenuto | 10'06" |
| 3 | III - Scherzo; Allegro vivace con delicatezza | 3'43" |
| 4 | IV - Allegro, ma non troppo | 8'00" |

幻想曲《さすらい人》ハ長調D.760 作品15

Fantasy in C major, Op.15 D.760 "Wanderer"

- | | | |
|---|---|-------|
| 5 | I - Allegro con fuoco ma non troppo | 6'16" |
| 6 | II - Adagio | 6'34" |
| 7 | III - Presto | 4'45" |
| 8 | IV - Allegro | 3'38" |

リリー・クラウス (ピアノ) LILI KRAUS, piano

録音：1979年1月、ニューヨーク、ヴァンガード23丁目スタジオ

Recorded: Vanguard's 23rd Street Studio, New York, January 1979

Producer: Seymour Solomon

Engineer: Jack Lothrop

Digital Remastering: David Baker, Toby Mountain, NDR

Cover Photo: Joel Brodsky

■クラウスのシューベルト

リリー・クラウス(1908-1986)は、モーツァルトやバルトークと並んでシューベルトを最も得意にしていたが、この2曲も非常に名演だ。1979年、彼女の73歳の録音であるが、テクニックの衰えもほとんど気にならない。ソナタで優れているのは、第2、第3の両楽章であろう。技巧上の心配がまったくないからである。第2楽章のひそやかに開始される心のつぶやきは何と良い雰囲気であろう。すばらしい音楽の流れ、音と音とのつながり具合は巧さの限りだし、感じ切った転調の生かし方はまさに最高だ。

トリオは分厚い心を秘めてしみじみと弾かれるが、主題がmfで反復される部分の明るい希望を持った表現など、クラウスの独壇場といえよう。ここには極めて自然な感情と音楽の流露がある。

第3楽章はクラウスにぴったりの音楽であり、彼女の心の華やきが明るい幸福を撒き散らしてゆく。聴いているとあの美しい顔や舞台姿が眼に浮かぶようだが、しかも破目はずさず、自然な微笑みに満ちているのだ。トリオはクラウスとしては素朴すぎるほど素朴である。が、その気取りのない表現によって、音楽の形がはっきりと投影されるのも事実であろう。

第1楽章は初めのうち、タッチの粗さの気に

なる部分がある。もっとも、出だしは美しい。あの第1主題のテンポが遅からず速からず、心のこめ方も過不足なく、シューベルトの音楽が何の抵抗もなく心に入りこんでくる。いちばん安心して聴ける演奏がここにある。しかし、音楽が高潮するにつれてクラウスの感情も激しく波立ち、クレッシェンドやffのタッチに抑揚が失われてしまう。だが、長大な提示部の反復を終わり、展開部に入るあたりから音楽は自然な流動を開始し、展開部のクライマックスへの持ってゆき方や、再現部の第1主題を受ける変ト長調の旋律の想いをこめたppなどはまことに美しく、この楽章全体を通じて尻上りの演奏になっているところが嬉しい。

第4楽章も途中でタッチの粗くなる瞬間があるとはいえ、いかにもクラウスらしい、間の良い、雰囲気のある名演で、ことに曲想に従ってペダルの使い方、音色、強弱などを多彩に変えてゆく豊かな感受性がすばらしく、ニュアンスに富んだシューベルトを描き出してゆくのである。

●ピアノ・ソナタ 変ロ長調(遺作)

シューベルトは死の年の1828年、ハ短調、イ長調、変ロ長調の3曲のピアノ・ソナタを一息に書き上げた。いずれも当時の名ピアニスト、フンメルに献呈するつもりだったといわれるが、

結局生前は陽の目を見ず、10年後の1838年にディアベリによって出版され、シューマンに献呈された。しかし音楽が長大で古典的な形式美に欠けるため、「シューベルトはソナタが下手」というのが定説となってほとんど演奏されず、一般に親しまれるようになったのは第二次大戦以後のことである。3曲ともシューベルトならではの美しい歌と転調に溢れており、9月26日に完成された「変ロ長調」は彼の最後の器楽作品となった。シューベルトが世を去ったのは、それから2か月後である。

第1楽章 モルト・モデラート 変ロ長調

4分の4拍子。ソナタ形式。

おっとりとした弾き出される第1主題は淋しい想いをこめて流れ、低音のトリルや休符によって中断される。長3度下の変ト長調の美しい旋律がそれにつづき、調号が変わって嬰ハ短調の第2主題が提示される。音楽は遙かな情感を湛えて息長く奏され、展開部ではクライマックスを築いた後、懐かしい微光のようなデリカシーが音楽を再現部へと導く。

第2楽章 アンダンテ・ソステヌート 嬰ハ短調

4分の3拍子。三部形式。

心の裡を自分のために綴ってゆくような緩徐楽章で、左手の動きがユニークである。中間部はイ長調に変わり、右手も低音部記号となって分厚い情感を漲らせる。

第3楽章 アレグロ・ヴィヴァーチェ・コン・デリカテツァ 変ロ長調 4分の3拍子。三部形式。

いかにもシューベルトらしい優雅な舞曲風の音楽。中間部では左手のsfpの使用が面白い。

第4楽章 アレグロ・ノン・トロppo 変ロ長調 4分の2拍子。ロンド風の自由なソナタ形式。

ト短調によって開始され、変ロ長調に赴く第1主題がフィナーレの主役であるが、優美な中にはかなさを秘めているのはこの調性のゆえであろう。

一方の「さすらい人」はかなり表情の強い演奏であり、聴いているとピアノ曲という感じがしない。つまり音の粒をそろえろとか、タッチを磨き上げることに専念するとか、ペダルを控え目に使って一つ一つの音をくっきり浮かび上がらせる、というような、ピアニスティックなことに神経を使わず、音楽の感情だけを捉えて、それを厚く表出することに全力をそそいでいるのだ。従って、これほど平面的でない「さすらい人」も珍しいだろう。

クラウスは音楽の各部、曲想の一つ一つを感じ切り、自分のものにし切っている。フレージングの自在さはもちろんのこと、感情の質は常に色濃く、身も心も音楽に没入し、幻想的なシューベルトの歌から荒れ狂うffの迫力に至

るまで、まるでオーケストラ曲のように表出してゆく。第2楽章アダージョのppをmpで深く鳴らしたり、fの左手がコントラバスのような意味深さを伴って分厚く弾かれるあたりにそのことが痛感されよう。

●幻想曲「さすらい人」作品15

シューベルトが歌曲「さすらい人 作品4の1」を書いたのは1816年10月、19歳のときである。リューベック作の詩により、疲れ果てたさすらい人の憧れと絶望を歌った傑作であるが、彼はこの歌曲の中間部の旋律を主題として、6年後の1822年にピアノ独奏用の幻想曲「さすらい人」を作曲した。

曲は切れ目なく演奏される4楽章形式により、幻想風ソナタと呼べるものであるが、歌曲の旋律は第2楽章の主題となり、他の3つの楽章のテーマも同じ旋律のリズムを使っており、全曲が歌曲「さすらい人」の基本動機によって構成されているのである。

第1楽章 アレグロ・コン・フォコ・マ・ノン・トロppo ハ長調 4分の4拍子。

基本動機による第1主題がいきなりfで激しく提示され、経過句の後、同じ動機から派生した第2主題がホ長調に登場する。再び第1主題がハ長調で力強く現れたところから展開部が始まるが、音楽は幻想的かつ奔放であり、

最後は主題のリズムが切れ切れになって嬰ハ短調の属7上に停止し、再現部なしで次の楽章に移ってしまう。

第2楽章 アダージョ 嬰ハ短調 4分の4拍子。

前述のように歌曲「さすらい人」の旋律を主題とする自由な変奏曲である。テーマが提示されると、すぐに変奏に入り、16分音符の導入から、32分音符、64分音符へと細分されてゆく。

第3楽章 プレスト 変イ長調 4分の3拍子。

スケルツォに相当する楽章で、中間部はワルツ調になる。主部が再現された後、イ短調に変わり、最後はハ長調の属和音上に停止する。

第4楽章 アレグロ ハ長調 4分の4拍子。

左手に基本動機が現れ、それが自由奔放に展開されてゆく。いわば第1楽章のつづきであるが、テーマの再現は行われず、力強く結絶する。

宇野功芳

*執筆者の了解を得てK-KICC 2171より転載させていただきました。

■ CD取り扱い上のご注意 ●ディスクは両面共、指紋、汚れ、キズ等を付けないように取り扱って下さい。●ディスクが汚れたときは、メガネふきのような柔らかい布で内周から外周に向かって放射状に軽くふき取って下さい。レコード用クリーナーや溶剤等は使用しないで下さい。●ディスクは両面共、鉛筆、ボールペン、油性ペン等で文字や絵を書いたり、シール等を貼付しないで下さい。●ひび割れや変形、又は接着剤等で補修したディスクは、危険ですから絶対に使用しないで下さい。

■ 保管上のご注意 ●直射日光の当たる場所や、高温・多湿の場所には保管しないで下さい。●ディスクは使用後、元のケースに入れて保管して下さい。●プラスチックケースの上に重いものを置いたり、落としたりすると、ケースが破損し、ケガをすることがあります。